

令和6年10月

厚生センターだより

栃木市生活環境部 人権・男女共同参画課 厚生センター係

人権啓発コーナー

秋なすは嫁に食わすな

厳しい残暑もようやく収まり、やっと秋の訪れを感じるようになってきました。そして、食卓には秋の味覚… 秋なすのおいしい季節となりました。秋なすは、夏のなすに比べて皮が薄くて柔らかく、しっとりと水分を含んだおいしいなすになります。



秋なすと言えば「秋なすは嫁に食わすな」ということわざがありますが、これにはどういう意味があるのでしょうか？

「秋なすび 早酒(わささ)の粕(かす)に つきまぜて 棚におくとも よめに食わすな」という古い和歌があります。すなわち「秋なすを酒粕に漬けておいしくなるまで棚に置いてそのまま待てよう。でも、よめ(嫁)に食べられないように気をつけなさいよ」という歌であると言われています。このことから、嫁姑の関係が悪く、姑が嫁に意地悪で食べさせない、すなわち「おいしいなすを嫁に食べさせるのはもったいない」と思うようになったわけです。しかしこの歌の「よめ」は「嫁」ではなく「夜目」、すなわち「ネズミ」のことを指すようです。(ネズミは夜でも見えることから、ネズミの隠語として「夜目」が使われてきました)

「よめ(ネズミ)に食べられないように気をつけなさいよ」が本当の意味のようです。

「秋なすはおいしいものだから、憎い嫁には食べさせるな」という、今も昔も世代が変わっても決してなくならない、嫁と姑の争いが背景にあるような意味となってしまったのですね。

また、「秋なすは嫁に食わすな」にはこんな意味があるとも言われています。

江戸時代の養生訓には「なすは性寒なり、多食すれば必ず腹痛下痢す。女人よく子宮をそこなう」とあります。なすは体の熱を取ると言われているため、涼しくなった秋に体を冷やすなすを食べると、ますます体が冷えてしまう、と考えられていました。特に「子宮をそこなう」は、妊娠を望む夫婦にとっては重要な問題です。

「お嫁さんの体を心配して食べさせてはいけない」という意味です。お嫁さんの体を心配して「おいしいけれど、食べない方がいいよ」と優しい姑が教えたと考えるのが正しいのかもしれませんがね。



厚生センターでは、生活上の各種相談をお受けしています。

お気軽にご相談ください。

(人権・生活・健康・年金に関することなどの相談に対応しています)

相談受付(電話でのご相談も可能) ☎0282(24)2444

日時: 月～金曜日(土・日・祝日は休み)

午前8時30分～午後5時15分

巡回相談 場所: 新栃木コミュニティ会館

日時: 10月7日(月) 午前10時～午前11時

